

# 東日本大震災およびそこから復興 に関する倫理レベルからの論点整理： 「自由」について

関口 海良

2011年6月4日

---

## 注 意 点

本エッセイの目的はみんなの議論を刺激したり、より明確にしてもらうためのヒントになることです。文章は断定的な表現になっていますが、それだけ確実というわけではありません。また本エッセイの目的は正解を提示することでもありませんし、実験的な議論を含めていますが何か新しいことを言うことでもありません。

本エッセイの「概要」にある文章は、2011年5月7日に筆者のウェブサイトにつづたチャリティーのページ [1] に自分で公開したものです。ただし、誤字・脱字は見つけ次第訂正していつています。本エッセイの内容には、概要を発表したときに筆者が想定していた議論よりも、さらに進めたものをかなりの程度含めています。

本エッセイは三部作の第一弾です。第二弾では「平等」という視点から、第三弾では「民主主義」という視点から論点を整理していく予定です。

本エッセイの内容は日本についてのみ当てはまるものとしします。なぜなら、国や地域によって自由、平等や、民主主義に関する歴史や受け止め方は異なり、ここで普遍的な議論をすることは困難だと考えたからです。

## 概要

これからどれくらい自由な生活ができるのか、それが問題の本質である。今回の震災では、もっと生きていたい、好きなところに住んでいたい、好きな仕事をしたいなど、たくさんの自由が失われてきた。復興とはこれらの自由を回復していくことである。

誰かに自由を放棄して欲しいと依頼する場合は、放棄した以上の自由があとで還ってくることを保障する必要がある。これは復興に目処がつくまでの期間についても当てはまる。例えば、安全を確保することや、仕事の信頼を守ること、報酬や賠償を払うということはこれらの還元の例である。少なくとも、みんなのためにただ犠牲になって欲しいというのは全体主義的で良くない。また、依頼する側にとってもこの論理は役に立つ。これによって復興への道のりや相手との関係がより明確になるからである。ただし、法令によってすでに定めがある場合は注意が必要である。それらは共同体のみんなの自由に関わっているし、従わないと罰を受ける可能性があるからである。法令に納得がいかない場合は次の選挙に反映させるなど、民主主義的な手続きによって意思を表明していく必要がある。

最終的に目指す社会の仕組みとしては、助け合いではなくて自由を前提としたものの方が良い。まず、自由そのものがポジティブな価値を持つからである。さらに重要なのはその予防効果のためである。例えば、助け合いを前提に社会を設計したとして、その仕組みを誰かが自分のためだけに悪用した場合の方が、初めから自由を想定した社会の場合よりもより悪い結果をもたらすと考えられる。それでも自発的に助け合っていく社会を目指すというのは、ひとつの目標になり得るが、東北の人々が魅せてくれたような助け合いは、例外的な偉業としてとどめておく方が良い。

最後に、全ての自由を保障すれば良いわけではない。それが平等の問題に関ってくる。

## はじめに

東日本大震災からの復興に関しては、助け合いを前提とした社会の仕組みを考えるよりも、自由を前提とする方が良い。これは復興に目処がつくまでの間の社会に関しても、最終的に目指す社会に関しても言える。ここで自由を前提とした社会の仕組みとは、一言で言えば、法によって何か「してはいけない」ことを決めておいてそれさえ守っておけば何をしていても良いとするもののことである。

例として、津波から命を守るためにはどこに住んだら良いかという問題を考えることできる。結論としては、基本的にはどこに住んではいけないかを法で決めておくのが良いと考えている。例えば、他人の土地に

は勝手に住んではいけない，たくさんの被災者の方の記憶に関わってくる場所には個人は住んではいけない，救助活動や避難行動が困難な場所には何かあっても良いという人以外は住んではいけないなどとしておく．そして，それさえ守っておけば，地元を離れたとしても，山の上に住んだとしても，もちろん今まで住んでいた場所を選んだしても問題ないということにする．要するにまとめると，それぞれが守りたいと思うものを守っていけるような社会にしていくということである．

言い換えれば，助け合いをすることを自ら選んだ人を「偉い」といって褒めるような社会にしていくということである．そして，助け合わない人がいても特に責めたりはしていかないということである．

自由という視点から社会の仕組みを設計していくとなぜ良いかについて，そのポイントは次の三つだと言える．

- i 自由という視点から見ると理解しやすいから
- ii 自由な社会の仕組みは抵抗力を持つから
- iii 自由はポジティブな価値を持つから

以下，それぞれの利点と注意点について述べる．ちなみに，二つ目の議論は主に国家という社会全体についてのもので，三つ目は主に個人の生き方についてである．スポーツに例えるなら，二つ目の議論はルールについてのもので，三つ目は個人やチームのスタイルについてである．

## i 自由という視点から見ると理解しやすいから

### 利点

東日本大震災そのものに関しても，そこからの復興に関しても，「自由」という視点から見ていくと理解しやすくなる．なぜなら，人が関わることには全て自由が関係しているからである．以下，具体例として三つのケースを見ていくことにする．

ひとつ目のケースは，地震と津波についてである．まず，被害とは自由を失ったことだと理解すると良い．例えば，もっと生きていく自由，好きなところに住む自由，好きな人と一緒にいられる自由など，たくさんの自由が失われたと言える．そして，復興とはこのようにして失われた自由を取り戻していくことだと理解すると良い．なぜなら，例えばどんなに立派な住居や仕事を取り戻せたとしても，そこに自由がなければ強制収容所に居るのと同じだからである．また，亡くなられた方について

も、せめて一人一人の御名前だけでも取り戻せることはできないかと考えることができる。もっとも、それも難しい現実が無念でならない。

二つ目のケースは、原発事故についてである。特に、警戒区域に住んでいた人々はたくさんの自由を強制的に失うことになった。例えば、好きなところに住む自由、好きな場所に行く自由や、財産を所有する自由などを失っていると言える。賠償が問題となっているのは、これらの自由を償う必要があるからだと言える。さらに、事故に関する情報公開の問題も自由が本質である。なぜなら、これは経営の自由と責任の問題だからである。さらに、自由なジャーナリズム、個人の表現の自由や、自由な議会の存在がなければ情報の公開状況はもっと悪くなっていたと考えられるからである。

三つ目のケースは、支援についてである。ここでは、被災者の方にとどのような言葉を掛けたら良いかという問題を挙げることができる。例えば、「がんばって」という言葉は被災者の方に辛い思いをさせてしまった場合があると言われている。もちろん、元気をもらった人もたくさんいるだろう。一方で、「祈っています」や「心配しています」という言葉は問題にはならなかったと言える。両者の大きな違いは、「(あなたは)がんばって」と「(わたしは)祈っています」の違いである。つまり、相手に何かを求めているか自分のことだけかの違いである。このように、この問題も他の人の自由をどのように扱うかという問題であったと理解できる。専門的には、言葉というものそれ自体が人の不自由さに関係していると言える。なぜなら、それは状況によって左右されたり、誤解があったりして、なかなか意図した通りにはいかないものだからである。

要するにまとめると、以上のように見ていけば、東日本大震災に関わる全ての問題は自由という視点から本質を理解できるということであった。

## 注意点

自由という視点から見ると理解しやすいことに関して、ここでは二つの注意点を挙げることにする。

ひとつ目の注意点は、復興において取り戻せる自由は震災の前までに持っていたものとは異なるということである。なぜなら、自由とは状況によって変わるものだからである。そして、震災によって状況が大きく変わったからである。

二つ目の注意点は、自由という視点は唯一絶対のものではないということである。なぜなら、他にも間主観性という視点、経済活動という視

点や、生物学的な視点などから見ていくこともできるからである。

要するにまとめると、自由という視点は問題の本質を捉えるのに有効であったが、注意も必要ということであった。

## ii 自由な社会の仕組みは抵抗力を持つから

### 利点

自由を前提とした社会の仕組みとは、ひとつの理解として、次のようなものであると考えることができる。まず、個人とは本来自由な存在であるというところから考えることにする。そして、そのような個人が集まって国家を形成するものとする。国家の役割は、国民全員から特定の自由の一部とか全部とかを平等に預かってきて管理する代わりに、より良い生活ができるように保障することである。具体的には、国家が法という形で何か「してはいけない」ことを決めておいて、みんなでそれを守っていくということになる。原則としては、国民全員が同意したと見なせる場合以外は法を決めることはできないとされる。もっとも、ほとんどの場合は選挙で決めた代表者たちの決定をもって国民全員が同意したとみなすことになる。なぜなら、大きな理由としては、国民全員で議論するのが困難だからである。重要な点は、国家の役割が発生するのは、全員が完全に自由であるよりも状況が良くなると見なせる限りでのみということである。これによって社会が最悪に向かうことを予防している。なぜなら、みんなの力が集まれば集まるほどより良い社会ができるという分だけ、より悪い社会にもなり得るからである。言い換えれば、必要以上の自由を権力者に委ねることはしない方が良いということだからである。要するに専門的にまとめると、まず自然状態というものを仮定して、人々による社会契約によって信託された国家が国民主権に基づいて法の垣根を作っていくということである。以下、さらに三つのポイントについて述べることにする。

ひとつ目のポイントは、自由を前提とした社会の仕組みの想定には最悪な事態も入っていることである。例えば、権力者が暴力によって支配するという状況も想定に入っていることになる。なぜなら、全員が自由という想定には、全員が自分勝手という想定も含まれているからである。そして、全員が自分勝手という想定には、権力者も自分勝手という想定が含まれているからである。重要な点は、自由を前提とした社会の仕組みには、そのようになるのを予防したり、「平和的」に抵抗するための仕組み

も備えていることである。その中でも強いものを挙げるとすると、「正当防衛」の場合に限り力づくで権力者を交代させても良いこと、インターネットで世界中に助けを求めても良いことや、外国も含めて他の地域に逃げてしまうことも理論上は許されている。もちろん対話で解決することが一番である。普段ならここまで考えておく必要があると言える。それなのに、東北の人々は助け合いを前提としても平気だったというのは、むしろ例外的な偉業であったと見なした方が良いと言える。

確かに、全員が自分勝手であると仮定するのは現実に即していないという批判は妥当である。なぜなら、東北の人々は前述したようなルールをおそらく持たない状態でも助け合っていたからである。また、自由な社会よりは助け合いをする社会の方がより理想的かもしれない。なぜなら、人は一人では生きられないからである。さらに言えば、完全に自由な状態というものは想像の中にしか存在しないに違いない。なぜなら、自由とは状況に依存するものだからである。それでも自由を前提とした方が良いと考える主な理由は、その慎重な態度を評価したためである。

二つ目のポイントは、相手の自由を一方向的に放棄させることは原則としてできないということである。なぜなら、何らかの自由を放棄するかどうかを決める自由は基本的には本人しか持っていないからである。そこで、相手の人の自由を放棄させなければいけない場合は、その分以上の自由を相手に還元する必要があると言える。理屈としては、会社で働いてもらう代わりにその分の給料を払うのと同じである。この論理を明確にしていくことで、被災者の方にとっても、被災者の方と向き合う側にとっても、復興へ向けて何をしたら良いかをより明確に理解するのに役立つと言える。例としては、放射能の汚染によって商品の出荷制限や自粛要請があったことや、その風評被害によって経営を悪化させたことに対して、賠償を支払うという場合を挙げることができる。これは仕事を営む自由や、収入によって得られたはずの生活の自由を失わせたことを埋め合わせていると理解できる。例えば、そのお金を使うことでもう一度仕事をやり直す機会を得たり、生活に必要なものを購入したりできるということである。

三つ目のポイントは、どうしても全員の助けが必要な場合はそれも実現できることである。なぜなら、それに関する法を整備すれば良いからである。そしてそれによって、その助け合いには原則として参加しなくてはいけなくなるからである。例えば、社会保障の議論はまさにそれだし、復興に向けての増税の議論もこれにあたる。これらに関しては、大

まかに言えば、国全体としてある程度は負担を分けていった方が良いという立場と、個人にできるだけ自由を残しておいた方が良いという立場とがある。重要な点は、いずれの立場も国家の仕組みとしては自由を前提としていることである。なぜなら、これらはどれだけの自由をどうやって国家の側に委譲するかという、その程度と実現の仕方についてのみ話し合っていると理解できるからである。最も重要なことは、どれだけ上手に法の枠組みを設定できるかで、どれだけ活力のある社会にしていけるかが大きく左右されることである。食事に例えるなら、どうすれば社会全体にとっての食べ放題コースを設定できるかということである。地域全体で方向性を持たせるという議論もこのポイントに関係している。

要するにまとめると、自由という視点から設計した社会の仕組みは、社会がより悪くならないための抵抗力を持つということであった。

## 注意点

自由な社会の仕組みが持つ抵抗力に関して、ここでは三つの注意点を挙げることにする。

ひとつ目の注意点は、定められた法令に従わないと罰を受ける可能性があることである。例えば、復興へ向けた増税に反対の立場の人でも、法が施行されたら原則としてそれを払わなければならないということである。ただし、法令に納得がいかない場合はそれを变えていこうとすることもできる。なぜなら、それぞれの個人には、選挙などの民主主義的な手続きを通じて、そのための働きかけを行っていく権利があるからである。もちろんそこには公正さが必要である。

二つ目の注意点は、二十世紀のドイツの全体主義のケースと、新自由主義がもたらした経済危機のケースについて挙げることができる。なぜなら、これらは自由を前提としても社会がかなり悪くなってしまう場合があることを示しているからである。結論としては、それでも筆者は自由を前提とした方が良いと考えている。ひとつ目の理由は、全体主義になってしまう可能性は助け合いを前提とした場合よりも低くなると考えられるからである。なぜなら、助け合いを前提とするということは、個人ではなく二人以上にとってという視点から考えていくことだからである。二つ目の理由は、これらのケースからすでに多くを学んでいるからである。例えば、いずれのケースについても、問題の本質は極端へ向かっていくことを熱狂の対象としてしまったことだという理解が得られている。言い換えれば、何事にも常に収束の可能性を確保しておくことが重

要だということがすでに学んでいるということである。これは今回の原発事故によって改めて痛感されたことでもあった。

三つ目の注意点は、自発的に助け合う場合についてである。ここで注意が必要なのは、親しい人と助け合うときに最初から最悪のケースを考えることはあまりしないからである。言い換えれば、悪い状態に変わっていったとしても対処できない可能性があるということである。どんなに親しい人との助け合いにおいても、代表者を交代させる際の手続き、全体に関するルールの決め方や、実行役とチェック役を分けるなどの仕組みはあらかじめ検討しておく方が良いと言える。なぜなら、相手の人が豹変する可能性があるからである。そしてそれは、権力というものそれ自体が人を墮落させる傾向を持っているからである。

ここから先は、今回の震災で確認された重要なポイントを三つ述べることにする。

ひとつ目のポイントは、今回の震災後に「つながり」あるいは「絆」が重要だと改めて認識されてきたことである。これが重要なのは、個人が自由でかつ孤立していないという状況を創り出せていたからである。そしてそれは全体主義化を防ぐのに有効だからである。言い換えれば、固定した境界線を持たない共同体ができていたからである。これに関しては、インターネットに関する技術が大きな役割を果たしていたことも重要である。なぜなら、科学技術の支援によって政治が変わり得ることが、中東だけでなく日本においても確認されたと言えるからである。

二つ目のポイントは、復興に際して個人が選択できるようにしておくことが有効なことである。なぜなら、選択をするという活動の中で自分の存在意味を見い出せるからである。さらに、専門家が相談に乗れるような仕組みを用意していけばさらに良いと言える。なぜなら、自分の意見を長期的な視野から明確に持つことは難しいことだからである。そしてそれゆえ、その人が何を求めているかのを一緒になって考えたり、話を聞いたりして、それぞれの想いを引き出す支援をすることが重要だからである。

三つ目のポイントは、スポーツが人々を熱狂させたり、音楽が人々の心を震えさせたりできることが改めて確認されたことである。このような、スポーツ、芸術、お祭りや趣味などに自由に参加できるような仕組みを社会の側でも用意しておくことは今後さらに重要になってくると言える。なぜなら、熱狂や感動を得ることは国家の仕組みからは期待してはいけないからである。



要するにまとめると、自由を前提とした社会の仕組みには大きな抵抗力があるが、注意も必要ということであった。

### iii 自由はポジティブな価値を持つから

#### 利点

本章では、自由とはそれ自体が前向きで力強い価値を持つということについて述べることにする。ここでは三つのポイントを挙げていく。

ひとつ目のポイントは、自由であるからこそ自分の存在意味を見つめられることである。なぜなら、何かに意味や価値があるというのは、他から区別されるところがあるということだからである。そして自分がそうなるためには、活動におけるオリジナリティが必要となってくるからである。例えば、復興活動において自分の提案が受け入れられたときなどに、自分の存在意味をより強く持てると言える。他にも、自分なりのコツ、工夫や、こだわりなどを見つけていくのも有効である。

二つ目のポイントは、自由な社会はより多くの人の受け皿になれることである。なぜなら、自由であればどのような道德観や倫理観を持つかも自由だからである。例えば、自由を否定するのも自由になる。一方で、助け合いを前提とすると「助け合わない」という自由を持つことは例外ということになる。言い換えれば、助け合うのが困難な人にとってはその分だけ辛い社会になると言える。道德観や倫理観については、とりあえず自由を前提としておいて、後はいろいろな人からいろいろな方向性が提案されていくのが良いと言える。なぜなら、これらはどんなに確からしく思っても何かのきっかけで百八十度変わってしまう程度のものである。また、そこまで極端でないにしろ、国の記憶をどのように持っていくかという問題もここに関係していると言える。

ちなみに、もし何か信じられるものが欲しいというのなら、例えば自分の名前について考えてみるのは良い。なぜなら、名前は過去とそして未来における自分と人とのつながりに重要な意味を持つからである。

三つ目のポイントは、自由は助け合いにも有効だということである。今回の震災に関する支援でも、自由であることによってよりたくさんの方がより自分の力を活かす形で助け合っていたと理解できる。言い換えれば、誰を守るか、いつ守るか、どのように守るかなどを選べたことが有効に働いたと言える。なぜなら、人によってそれぞれ事情は異なるからである。例えば、避難の援助、支援物資の提供、がれきの除去、歌うこと、

スポーツすること、そしてもちろん募金などさまざまな支援が行われてきたし、たくさんの人がそれらに自発的に参加してきたことがこれを示している。また、自由過ぎると何をしたら良いか分からないという問題もある程度は解決できていたと言える。なぜなら、自分に合った支援の仕方を見つけることは比較的簡単にできたはずだからである。そしてそれは、停電で各種端末が使えなくなった問題はあったにしろ、さまざまなメディアによってさまざまな支援の存在が伝えられてきたからである。

要するにまとめると、自由とはポジティブな価値を持つということであった。

## 注意点

自由がポジティブな価値を持つことに関して、ここでは三つの注意点を挙げることにする。

ひとつ目の注意点は、アイデンティティについてである。今回の震災によって、支援をするために「自分に何ができるか」を世界中の人々が考えたと言われている。このことは歴史的にも重要な出来事であったと言える。なぜなら、これは大衆社会の特徴が出たというよりは、世界規模で公的な空間が実現されたと言えるからである。ただしその結果として、少なくとも日本では、自分らしさとは何かに悩んだり、その非力さに絶望したという意見を何度か耳にすることになった。また、自分で考えた意見を批判されたり、人と比較されたり、自分で考えたアイデアが失敗して欲しいと期待されたりして辛い思いをした人もいるかと思う。あるいは、自分らしさを出していくのに疲れたという人もいるに違いない。

これらに関しては、ひとつ目として、自分は何のためにやっているかをあらかじめ明確にしておくことが有効である。なぜなら、失敗や批判を次に活かすことがより明確にできるようになるからである。そして、理不尽な評価の理不尽さをより明確に理解できるからである。二つ目として、辛いときは誰かに相談できると良い。三つ目として、最後までやりきれば、少なくとも達成感は得られる。四つ目として、教育の問題が重要である。例えば、主要科目は知識、論理的思考や、時には競争の仕方を身につける上でも有効であると言える。その一方で、図工、音楽、美術や、技術家庭科などの科目で何かを創っていくことや、文化祭や体育祭といった活動をまじめに楽しむことも重要である。なぜなら、これらは唯一絶対の正解が存在しない問題を扱うからである。五つ目として、専門的には、境界線や間主観性という視点が有効である。なぜなら、本当の

自分とは何かという問題を相対化できるからである。そして最後として、もちろん、そこまでして個性とか考えたくないというのも自由である。

二つ目の注意点は、全ての自由は正当性を持つわけではないことである。例えば、基本的人権や公序良俗に関する議論はまさにそれである。実際、これらはすでに法によって保護されている。本エッセイの趣旨から言えば、それで自由が制限されたとしても、そういう社会にしていっての方がそれぞれの個人にとっても良いとみなせるからということになる。エッセイの第二弾では、このような問題を主に平等という視点から見ていく予定である。

三つ目の注意点は、正当性がある自由であっても、それを持つことができない場合があることである。なぜなら、利害が一致しない場合があるからである。つまり、自分の主張が採用されなかった場合は、それを実現するという自由を持つことはできなくなるからである。エッセイの第三弾では、このような問題を主に民主主義という視点から見ていく予定である。

要するにまとめると、自由とはポジティブな価値を持つけれど、注意も必要ということであった。

## おわりに

本エッセイでは、東北の人々が魅せてくれた我慢や助け合いは、例外的な偉業としてのみ留めておくのが良いということについて述べた。

国家の仕組みに関してそれが言えるのは、今まで自由を前提としてきてそれなりにやれて来れたからであった。これよりも有効なものを今から考え出し実現していくのは、復興には間に合わないに違いない。言い換えれば、復興に向けて日本国憲法から変えていくというのは難しいということであった。

今後、個人や企業がビジョンを持って活動していくことがさらに重要になってくると言える。なぜなら、国家の仕組みに冒険を求めることはできないからであった。政治にはこれらの活動をさらに活かしていくのにちょうど良いと言えるような法の整備をしていくことが求められてくるのではないかと考えている。今回自由が重要であるとしたのは、自由とはこのような議論の前提条件だからでもあった。

要するにまとめると、これからも自由を前提とした社会の仕組みを考えていくのは有効であるということであった。

## cf. Abstracts in English (「概要」の英語版)

An essential theme is how much degree of freedom and liberty people can be able to get. This disaster is harming a lot of freedom and liberty of people such as their wills and conditions to live longer, reside where they were born, and do jobs and works they love. I consider to recover such freedom and liberty is fundamental to reconstruct Japan.

Even in terms of the reconstruction, to ask others to give up some sort of freedom and liberty needs a condition. It is to guarantee to return them no less degree of freedom and liberty than the former in future. For example, some of the returns are to secure their lives, protect trust of their jobs and works, and pay rewards or compensations. At least, it is not good to force persons to become a sacrifice because it connects to totalitarianism. Furthermore, to use the logic is also useful for persons who plan or ask such renouncement because it can allow them to clearly understand the way to the reconstruction and relationships to the others. Then, people should be careful if there is any law or ordinance because it relates freedom and liberty of community members and may decide some punishment. In case someone can not consent to it in Japan, he or she must resort to democratic actions such as to utilize a popular election.

I consider one of the principles of Japanese societies should not be cooperation but freedom and liberty. It is because freedom and liberty have positive values. Moreover it is because it can avoid becoming worse situations: a social design depended on cooperation will cause a worse society if someone abuses the system selfishly. It may be the best if people will use their freedom and liberty for cooperation as Tohoku people do but it can not be a rule. I think people should consider voluntary cooperation just as a special deed in Japan.

It is true that not every freedom and liberty is just. And this argument relates the idea of equality.

## 参考資料

- [1] 筆者のウェブサイトにしたチャリティーのページ (日本語) :  
<http://www.ethics-level.com/charity-jp.html>